

令和4年度あんしんケアセンター事業評価について(市独自指標)

＜市独自指標について＞

国が策定した全国統一の評価指標では網羅されない事業・取組内容について、市独自の指標を作成し（令和元年度の第3回あんしんケアセンター等運営部会にて承認）、国の指標と併せて、実施状況を把握した。集計結果は以下のとおりである。

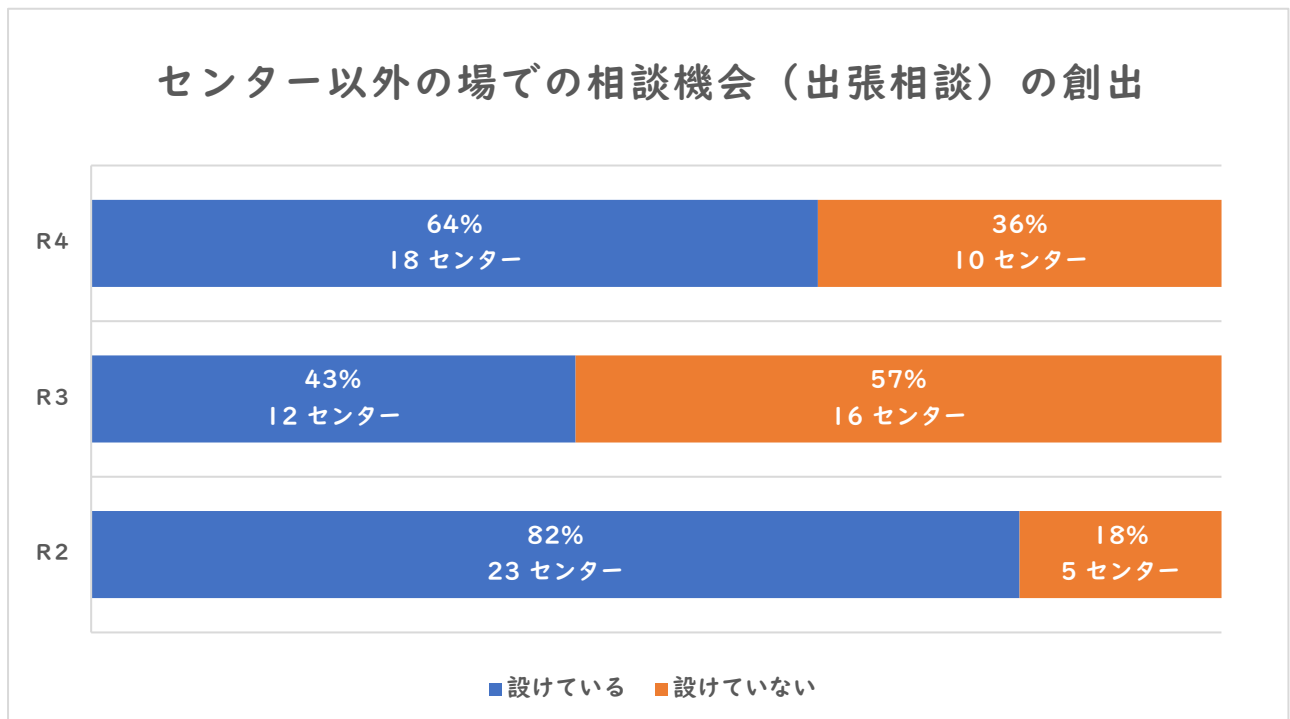
なお、評価にあたっては、国の指標同様、令和3年度の取組みを対象とした。

＜評価結果＞

1 総合相談支援

（1）センター以外で市民が相談できる機会の創出について

【Q1】圏域内での相談の機会を確保するために、センター以外で相談ができる機会を定期的に設けているか。



【総合相談に係る評価】

設問（Q1）は「出張相談」に関する実施状況である。

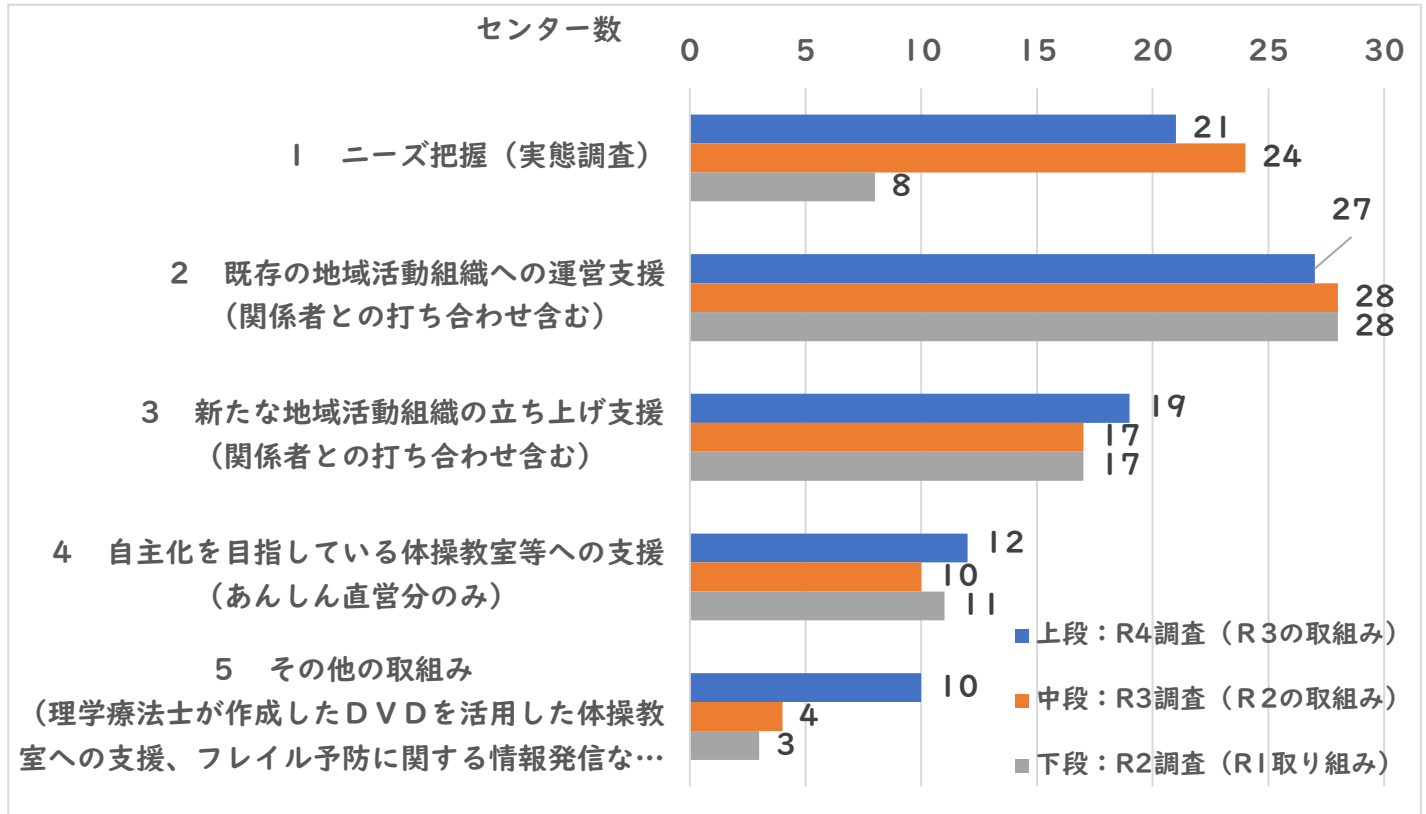
出張相談の主な会場として、「公民館や自治会館、いきいきプラザ」などがあり、地域のサークル活動の前後に相談の時間を設けているケースが多い。

一方で、場所の確保や集客などの課題から、「訪問相談」などの個別支援が効果的・効率的な地域があるため、各センターの地域特性を踏まえ、引き続きアウトリーチも進めていく。

2 一般介護予防事業

(1) 介護予防や社会活動参加に資する多様な地域活動組織の把握、育成及び支援について

【Q4-1】具体的な取り組み内容



【Q4-2】上記「1 ニーズ把握（実態調査）」の具体的な内容

- ・町内自治会と協力して全戸アンケートを行い、自治会で結果を共有。
- ・生活支援コーディネーターと連携し、コロナ禍でのサロン等の活動状況のアンケートを実施。
- ・高齢者サロンの運営主宰者やシニアリーダーと意見交換を行い、ニーズを把握。
- ・地域ケア会議の開催や民児協の会議への出席を通じ、地域活動の意見交換を行い、ニーズを把握。
- ・シニアリーダー連絡会の会議に出席し（オンライン出席含む）、意見交換を行い、ニーズを把握。

【一般介護予防事業に係る評価】

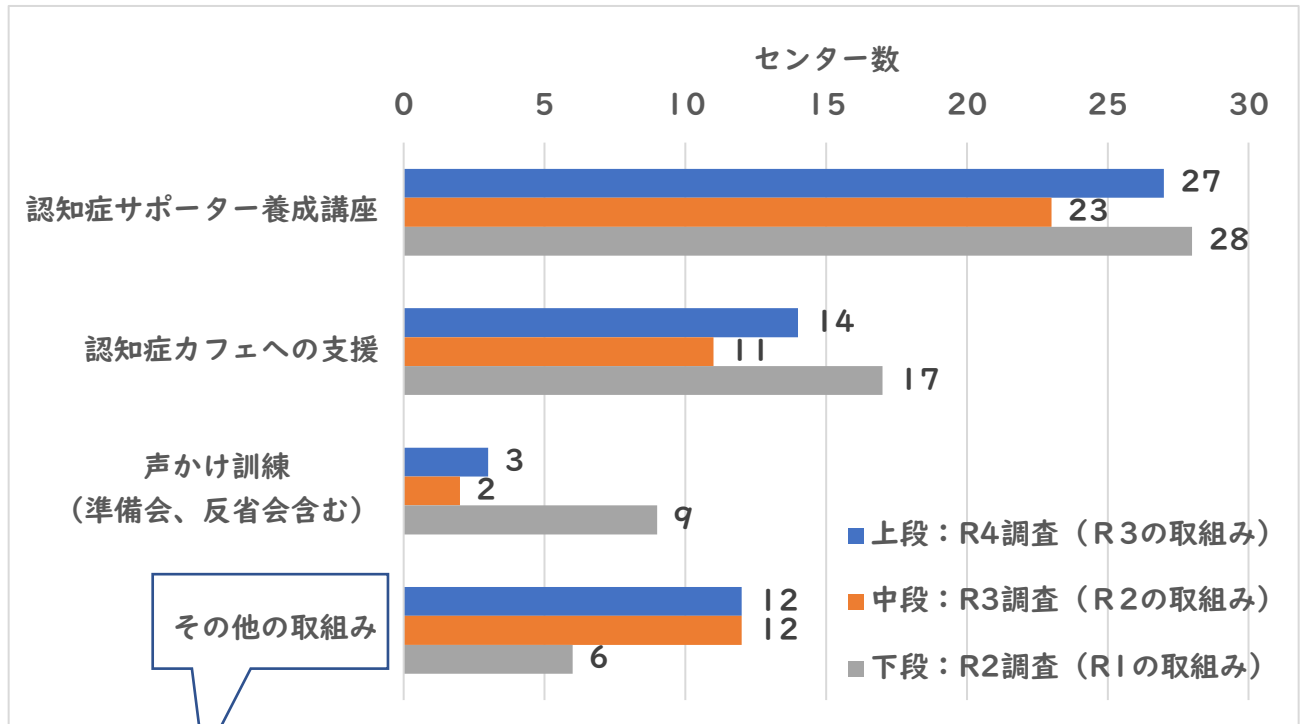
コロナ禍初期には休止・延期した通いの場が多かったため、令和2年度以降「ニーズ把握（実態調査）」を行うセンターが急増している。

また、オンラインの活用やフレイル予防の意識が高まり、活動再開や新規立ち上げを行う団体が増えてきている。今後も通いの場の運営継続・再開支援に努めていく。

3 認知症施策の推進

(1) 認知症に関する理解を深めるための普及啓発の取組みについて

【Q6-1-①】具体的な取り組み内容



上記「その他」の具体的な内容

- ・ 認知症の啓発イベントへの参画
- ・ 認知症ケアパス、どこシル伝言板の周知
- ・ 認知症介護交流会や民生委員の定例会等での情報提供
- ・ 町内自治会と連携した介護予防の広報誌の全戸配布
- ・ 認知症についての講座の開催

【認知症施策の推進に係る評価】

認知症高齢者の増加や、コロナ禍の長期化により、認知症への支援や交流の場の必要性への意識が高まり、地域からの認知症サポーター養成講座の開催や認知症カフェの新規立ち上げの希望者が増えている。

引き続き、一般市民のほか、企業や学校とも連携し、オンライン開催による講座を活用した認知症サポーター養成を進めていく。

また、認知症カフェ支援において、主宰者や新規立ち上げ希望者の交流会等を開催していく。